

編集・発行 大阪障がい者スポーツ指導者協議会 広報部 令和6年1月15日 第87号
<http://osaka-adspo.org/>

平素は大阪障がい者スポーツ指導者協議会の活動にご協力頂きありがとうございます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、障がい者スポーツ活動も各所で賑わいを取り戻しました。本協議会でも研修会や交流会などほぼ通常通りの開催に戻り、参加された会員の皆様と一緒に知識・技術の向上を楽しむことができました。

また、昨年10月には2020年にコロナ禍で延期となった全国障害者スポーツ大会『燃ゆる感動かごしま大会』が『特別大会』として開催され、多くの成果と感動を残す素晴らしい大会となりました。

今号（第87号）では、大阪障がい者スポーツ指導者協議会の昨年の活動と、特集として『燃ゆる感動かごしま大会』を現地取材で得た感動と共に皆様にお届けいたします。

広報部

もくじ

・令和5年度研修会・交流会	・・・・・・・・・・	2ページ
・令和5年度総会・基調講演	・・・・・・・・・・	3ページ
・ 特集！ 特別全国障害者スポーツ大会『燃ゆる感動かごしま大会』		
結団式・開会式	・・・・・・・・・・	4ページ
各競技	・・・・・・・・・・	5～11ページ
・編集後記	・・・・・・・・・・	12ページ

令和4年度研修会の報告

日時 令和5年2月23日（木・祝） 13:30～15:30 場所 ファインプラザ大阪

講義 全国障害者スポーツ大会におけるバレーボール競技（知的障がい者）の現状と今後の取り組みについて

実技 知的障がいのある選手への対応とバレーボール指導方法

講師 西日本知的障がい者バレーボール連盟 事務局 小田 智佳 様

～参加者の声 池田真由美さん～

私が障がい者スポーツ指導者資格を取得して間もない頃、知的障がいのある女の子が宝物を見せてくれました。何枚ものハンカチの中から現れたのは全スポのメダルでした。誇らし気に笑う瞳の輝きに障害者スポーツがどれほど心を高め、恵みを齎すのかを知ったのです。決して単純ではない複雑さに耐えて生きて行かねばならない現実は厳しいけれど、スポーツを通じて共に学び心豊かに情感を深めて行けたなら私も何かの力になれるかな。そんな想いから様々な研修会やボランティアに参加して勉強させて頂いています。どの先生も生きる力を与え、心に寄り添い、人とかかわる喜びを改めて思い巡らす機会を与えて下さいます。本日も大変充実した時間となりました。段取りして下さいました皆様方本当にありがとうございました。



令和5年度指導員交流会の報告

令和5年10月22日（日）10:00～16:00 場所 旧生野南小学校

内容 前半：ボッチャルール・審判研修 後半：ボッチャ交流会

講師 大阪ボッチャ協会 濱野様、岡田様、矢吹様

普段から日本国内のボッチャ選手の競技力向上や、競技の振興や普及等でご活躍されている大阪ボッチャ協会より講師を招きし、ボッチャ競技について、会員の皆様と楽しみながら学習することができました。特に実技では会員同士お互い話し合っゲームを進めたり、途中で講師に直接質問して知識を深めている場面も多くありました。皆さんとても熱心で積極的に取り組んでおられました。私も一緒に参加させていただき、パラスポーツに関わる方々の熱い思いと素晴らしい人との繋がりを体感する貴重な経験となりました。

（記事）広報部 木村 華良



「PEP TALK!」

講師：日本ペップトーク協会 認定講師

菅野 輝史さん



ペップトークとは、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチです。目の前の人を元気づけ、勇気づける魔法の言葉です。

ペップトーク

- ・ポジティブ語で
- ・ゴールに向かった
- ・短くてわかりやすい
- ・人をその気にさせる
- ・言葉がけ

ペップな口癖

- ・できる 良い調子
- ・大丈夫 それ良いね
- ・わかるよ うまくいく
- ・すごい それでいいよ
- ・ありがとう

ブppetトーク

- ・ネガティ語で
- ・相手のためといいながら
- ・ゴールは無視して
- ・延々と
- ・人をやる気をなくす
- ・説教・命令

ブッペな口癖

- ・できない ダメだ
- ・やっても無駄だ
- ・最悪
- ・理解できない 無理
- ・そんなこともできない
- ・あたりまえ

承認のピラミッド

承認

よく最後までやりきった！
昨日より良かった！

手伝ってくれて助かるよ！
頑張ってるね！

君ならきっとできるよ！
君がいるから踏ん張れた！

喜ぶ

結果

ほめる

行動

存在

夢・希望・想い・存在そのもの

否定

何をしてもダメなやつだ！
やっぱり、できないのか！

やる気あるのか！
なんでできないんだ！

お前には無理！
お前じゃなくていいよ！

★結果→失敗したときは、行動に目をむける。それでもダメなら存在へもどる。

ペップトークの4ステップ

④ 激励 背中へのひと押し

最後に熱い言葉、優しい言葉で、相手の背中を押して送り出す。

③ 行動 してほしい変換

行動につながる声かけ。
「～しよう」に変換することで、相手に成功をイメージさせる。

① 受容 事実の受け入れ

何が起きているのか、しっかり受け入れる。まずは、傾聴することから始める。

② 承認 とらえかた変換

見方を変える。状況をプラスに捉える。
事実はひとつ。とらえ方は無数。

承認

一生懸命
努力家
笑顔
気が利く

出来ていないところ
改善点

ミス 苦手
欠点 緊張
不安

4つのステップの言葉を磨くと相手にとって信頼できる存在になります。

- ① 受容 寄り添える人
- ② 承認 気づかせる人
- ③ 行動 未来に導く人
- ④ 激励 勇気づける人

セルフペップトーク→まずは、自分が元気に！

3・3・7拍子で「できる・できる・必ずできる」など、自分へ勇気づけの言葉を使います。ペップトークを習慣化させるために、毎朝、毎晩、セルフペップからはじめましょう。（記事）広報部 松浦 春代

※内容は講演資料を引用しています

特集!! 特別全国障害者スポーツ大会

燃ゆる感動かごしま大会

令和5年 10月28日(土)、29日(日)、30日(月)



開会式 白波スタジアム

10月28日土曜日 快晴の下桜島が見守る中、白波スタジアムにおいて、秋篠宮殿下・妃殿下のご臨席を賜り盛大に開催されました。

鹿児島市内は桜島の噴火の影響で火山灰が降り、マスク、点眼薬等を忘れずに持参するようとの情報があり、大変な取材になると覚悟を決めて空路、鹿児島へ。

鹿児島に上陸すると写真にあるような、抜けるような青空の元、桜島に見守られての開会式となりました。

開会式では大会旗を先頭に、昨年度開催県の栃木県を先頭に大阪府・大阪市・堺市の選手団も堂々と行進を行いました。

大会前に行
われたよ



結団式の様子

全スポ大会の開催を控えた

10月中旬に大阪府・大阪市・堺市においては今大会に参加する選手・役員を集められ、盛大に送り出されました。

※選手の保護者も見学に来られていました。





バレーボール（聴覚・男子）



令和5年10月28日（土）～29日（日）に、桜島にある南栄リース桜島アリーナ（桜島総合体育館）で行われました。鹿児島～桜島はフェリーに乗り15分程で着くことができ、桜島の雄大な景色とエネルギーを感じながら会場まで歩いて向かいました。

バレーボール（聴覚・男子）大阪市選手団はチームがまとまっており、試合が始まる前には士気を鼓舞するパフォーマンスを自分たちで作上げたのかチーム独特でした。

ミスをして、スパイクが成功しても、常にコミュニケーションをとりながらゲームを進めていました。1回戦は愛知県と対戦し0-2で勝利し、準決勝は鹿児島県に0-2で次へ勝ち進み、決勝では広島市に0-2で勝ち優勝しました。昨年のいちご一会とちぎ大会においても優勝し、連覇を果たしました。

バレーボール（聴覚・女子）においては、2017 愛顔つなぐ愛媛大会・2018 福井しあわせ元気大会・2022 いちご一会とちぎ大会、そして今回の燃ゆる感動かごしま大会も優勝をして4連覇を果たしました。この驚異的な強さは、男子も女子も続くように頑張りたいです。





フライングディスク



大阪府選手団役員 FD 新川豊美

令和2年（2020年）に鹿児島県で第20回全国障害者スポーツ大会（愛称：燃ゆる感動がごしま大会）が開催予定でしたが、第75回国民体育大会の開催延期に伴い、令和5年（2023年）に特別全国障害者スポーツ大会として2023年10月28日から30日まで開催されました。

鹿児島入りした日は大雨だったようですが、3日間とも好天に恵まれスポーツ日和でした。フライングディスク大会に大阪府の役員として参加させていただきました。大阪府の宿舎から大会場まで1時間かかることもあり、毎日5時起床で選手の疲労が心配な毎日でした。初めて参加する選手もいたのですが、みんなで頑張ることができたと思います。障害の有無にかかわらず、感動をありがとうの日々でした。

今回は大阪府選手団の役員から意見をいただきました。府の役員として参加させていただき、頑張っておられる姿に感動し、少しでも役にたてるのであれば次回も参加させていただこうと思う気持ちになります。

「私自身は3度目の参加ですが、毎回、真剣に競技に取り組み、仲間を応援する、選手の皆さんの姿に感動させてもらい、自分もまだまだ頑張ろうという勇気が湧いて来ます。本当に貴重な5日間です」もうすぐ自分の試合があるのに仲間の1投1投に全力で応援している姿に感動しました。

大阪 ONE TEAM



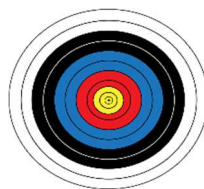
アーチェリー



令和5年10月29日快晴にめぐまれ、鹿児島ふれあいスポーツランドで行われました。

アーチェリーは、弓の種類の違いによりリカーブ（弓の両端が反り返った形）とコンパウンド（両端に滑車がついた弓で軽い力で引くことができる）があり、それぞれ 50m と 30m 先の標的を射て得点を競う 50m・30m ラウンドと、30m 先の標的を 2 度射て得点を競う 30m ダブルラウンドがあります。

試合前は各選手達もリラックスし談笑していましたが、試合が始まるとキリッとした表情に変わり応援する側も静かに見守っていました。



卓 球



令和5年10月28日～29日に西原商会アリーナ（鹿児島アリーナ）で行われました。西原商会アリーナ（鹿児島アリーナ）には、ヨーロッパの古城を思わせる石門があり、それは旧鹿児島県庁の正面入口でした。

会場内は選手・応援する人達の熱気が緊張感とワクワク感にかわり声援となって会場に響いていました。大阪府・大阪市・堺市の選手団も選手控所から声援を送っていました。



ボウリング



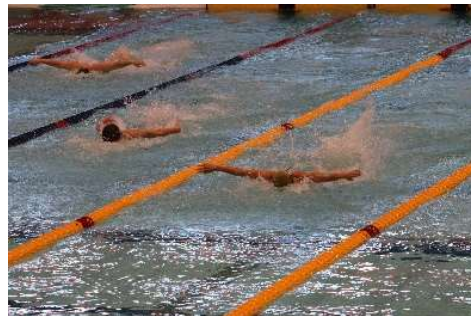
令和5年10月28日～29日に、鹿児島市内にあるボウリング場サンライトゾーンで行われました。1階駐車場が選手控所になるのでかなり狭いですが、各選手団は自分達のペースでリラックスされ待機されていました。

試合の方法は、デュアルレーン方式（左右の2つのレーンを交互に投球する方式）で行われ、投球されたボールはすごい勢いでピンを倒すと自分なりのガッツポーズを取られていました。





水泳



10月28日～30日 鴨池公園水泳プール

新装になった、鴨池公園水泳プールにおいて、28日～30日までの三日間、熱戦が繰り上げられた。同時期に中国の広州でアジアパラ大会が開催されており、そちらの大会に参加のため一部の選手が参加できない状況になっていました。大阪府・大阪市・堺市も例外ではありませんでした。

スタンドでは、大阪府大阪市堺市の選手監督コーチがかたまって応援をします。入場では、集中力を高めるためイヤホンで音楽を聴きながら入場する選手もいます。

会場は、鹿児島の小中学校の児童生徒により、のぼりが作られ参加都道府県政令都市を応援しています。

※各会場で見られました。

※2004年全国中学校水泳競技大会で初めて実施され、全国に広がりました。



ボッチャ



28日29日 指宿総合体育館

先日、大阪障がい者スポーツ指導者協議会で実施された、ボッチャ競技。

選手を応援しながら、ついつい審判の動きを目で追ってしまいます。

競技の方は対戦相手の作戦（ジャッジボールをコートの大外に置き、一投目をジャッジボールの手前に置く。）で苦戦を強いられましたが、ラストの一投でジャッジボールの最内につけ（味方の1投目から4投目までは、ジャッジボールの近くまで行くのですが、あと一歩で届きません。最後の一投（5投目）が相手ボールの内に着けることができ、1投目から4投目までのボールがジャッジボールを囲む形（壁）になり勝利を引き寄せました。見事な逆転勝利でした。



グランドソフトボール

(視力障がい)



28日29日 指宿開門総合グラウンド

ボールはハンドボールの形状に似ており、一回り大きい。ピッチャーはキャッチャーの拍手3度で投球に移る。ホームベースの上を通るとストライク。但し、全盲の方がバッターの場合は、バウンドするとボールになる。123塁のベースの横にそれぞれ平らなベースがあり、また攻撃の時にはコーチが付き情報を伝える。などなど、合理的で選手の障がいに応じて工夫されている。合図や指示が飛び交うにぎやかなゲームですが、一瞬の静寂があります。それは、キャッチャーがピッチャーに対して投球を促すときそしてバッターが打席で準備をするときです。見ていて大変楽しく、夢中で見てしまう競技です。また、ルールの工夫次第で健常の老若男女が楽しめるゲームです。



陸上



28日～30日 白波スタジアム

トラックとフィールドに分かれて競技が同時進行します。見る者にとっては、水泳競技等と違い競技場が大きく、また広くなかなか集中して競技を見るのに困りました。最終日は、4×100mリレーが行われました。

閉会式

10月30日 白波スタジアム

好天に恵まれ、また雄大な桜島に見守られた、特別鹿児島国体 コロナ感染症の影響で開催が延期となった特別な国体、三日間燃え続けた炬火、静かに幕を閉じました。

たくさんのボランティアの協力と地元の小中学生の参加で大いに盛り上がりました。

開閉会式の司会には地元の高校の放送部の生徒が担い、演奏関係は吹奏楽部が活躍していました。

(記事) 広報部 松浦 春代 植田 克彦

広報部より

本号では協議会の事業や全国障がい者スポーツ大会に参加された方々のたくさんの笑顔を掲載することができました。取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。